

NPO 純正律音楽研究会会報 ～2007年9月発行～

ひびきジャーナル



〒106-0031 東京都港区西麻布 2-9-2 Tel:03-3407-3726 Fax:03-3797-5640 e-mail:info@pure-music.ne.jp

No.20

発行日 平成19年9月30日

発行責任者 玉木宏樹

編集 NPO 法人 純正律音楽研究会
秋山治樹・相坂政夫



(都電荒川線 9000 形。早稲田停留所にて。)

【玉木宏樹の都電演奏会の旅】ご報告。

前回の【ひびきジャーナル 6月号】で、ご報告致しました純正律音楽研究会の理事会・総会の場で、常重一志氏よりご提案頂いた【都電演奏会】ですが、早速8月19日(日)に関係者皆様にご参集頂いて、ゲネプロ(全体リハーサル)を行いました。動いている車内での演奏という初めての試みもあり、当初不安がありましたが、皆様のご協力に寄りまして、無事にリハーサルを終え、続いて本番である9月1日(土)、8日(土)の2回を行うことが出来ました。



男性のお客様には座席が足りず、お立ち見でのご観賞になってしまいましたが、約 1 時間の【都電演奏会の旅】は大好評のうちに、第一回、第二回を終えることが出来ました。ご参加頂きました皆様には、御礼を申し上げます。

さて年内の【都電演奏会の旅】の予定ですが、巻末にて詳細を記しますが、11月23日（金・祝）、12月15日（土）、12月22日（土）のいずれも午後12時、早稲田停留所出発を計画しております。皆様のご予約をお待ち申し上げます。（詳細は、巻末の【今後のスケジュール】にて、ご確認ください。）


 対談


 ♪玉木宏樹の、この人と響き合う♪ 前編
 

ヴァイオリニスト・ハルダングルヴァイオリニスト・作曲家
山瀬理桜さん

対談ご同席 【ストリング】編集長 青木日出男さん

山瀬理桜（やませ りお）

<ヴァイオリニスト&ハルダングルヴァイオリニスト・作曲家>

桐朋学園大学音楽学部演奏学科ヴァイオリン科卒業。ヴァイオリンを江藤俊哉氏、江藤アンジェラ氏、の各氏に師事。ハルダングルヴァイオリンをハールバル・クヴォーレ氏に師事。

1998年からピアニストの姉とデュオを結成し、クラシックを基盤に北欧の民族音楽やポップス音楽など、自らアレンジし取り入れ作曲も行う演奏活動が注目を集める。

2003年はハルダングルヴァイオリンの活動も多く取り入れ、日本各地でのコンサートやNHK-衛星第2に出演他、ノルウェー王国大使館やスカンジナビア航空（SAS）主催のレクチャーやイベント等に、ハルダングルヴァイオリン奏者と、講師としても招かれる。またノルウェーの新聞各紙に、日本人のヴァイオリニスト&ハルダングルヴァイオリン奏者として紹介される。2004年に、ビクターエンタテインメント株式会社より「ゴールデン・オーロラ」でメジャーデビュー後は、日本の各マスメディアに出演。ノルウェーでも多数の国営NRKラジオにゲスト出演、日本人初ハルダングルヴァイオリニストとして紹介される。2005年、セカンドアルバム「クリスタルローズ ガーデン」をビクターエンタテインメントよりリリース。

2006年、1月3日から三鷹の森「ジブリ美術館」で公開の、宮崎駿監督の新作短編アニメーション「水グモもんもん」の音楽を担当。同時に「水グモもんもん」オリジナルサウンドトラックもリリース。現在は多方面での演奏活動やヴァイオリン&ハルダングルヴァイオリンの指導も行っている。



玉木 本日は、【ストリング】編集長の青木さんのご紹介で、山瀬理桜さんとお話できるということで楽しみにしていました。山瀬さん、青木さん、宜しくお願いします。

山瀬 どうぞ、宜しくお願いします。

ハルダンゲルヴァイオリンの魅力！

山瀬 玉木さんは北欧へは、いらしたことがあります？

玉木 まだないです。ボクはノルウェーが好きでね！【ハルダンゲルヴァイオリン】の実物も、まだ見たことがないんだけど。写真ではね、何回も見たことがありますけど・・・

山瀬 【ハルダンゲル】は、約24通り位のチューニングスタイルがあって、上の弦と下の共鳴弦のシステムが、ちゃんと出来てるんです。そういう意味では、ヴァイオリンとは少し違った流れから来ているのではないかとされています。

玉木 へえ・・・ちょっと弾いてもらえますか？

山瀬 はい、いいですよ！

～山瀬さんの素敵な【ハルダンゲルヴァイオリン】の演奏～

玉木 素晴らしい！！ 実にいいですね。グリーグは、【ハルダンゲル】で作曲した曲を、ピアノに置き換えていますよね。ボクは原曲とピアノに置き換えた曲のLPを持っていました。

山瀬 面白いのは、ノルウェーと日本は文化がとても似ているんです。ノルウェーにも日本と同じように、河童とか天狗のような自然の神様がいて、その土地土地の物語から音楽が生まれている。グリーグは、そこからクラシックに取り入れて、それが近代のラベルやドビッシーのようなフランス近代の音楽家に多大な影響を与えたというのが興味深いですよ。

玉木 【ニッケルハルパ(スウェーデンの民族楽器で、鍵盤付きヴァイオリン)】って、スウェーデン人は全然知らないって言うけれど、【ハルダンゲル】は、ノルウェーの人は全然知らないってことはないですよ？

山瀬 ところがね、ノルウェーでも日本の三味線やお琴と同じような位置づけになっているせいか、街の楽器屋さんでは売ってないんです。

玉木 でもノルウェーの人は、この楽器のことを知っているんでしょ？

山瀬 ノルウェーの若い人達は、『ちょっと古い人たちがやっているよね！』程度の感じです。でも最近、日本の【吉田兄弟】さんみたいな、ちょっと若手の演奏者が段々増えてきていて、『カッコイイね！』って言われるような状態になってきています。今、少しずつブームが来ているんですよ。

玉木 【トヴェイト】っていう作曲家、あの人もよく【ハルダンゲル】関係をやってますよね。

山瀬 あの方も、ノルウェーの各土地に行って曲をゲットしているんですけど、中々土地の人は教えてくれないんですよ。自分達の昔からある大切な音楽だから。もっと昔の時代になると、フィドル奏者の人達が演奏する時、人気のフィドル奏者の人が聴きに来てると、とっておきの曲は弾かないんです。

玉木 はっはっはっ・・・(笑) なんだかなあ。心が狭いっていうかあ。

山瀬 自分の土地を心から愛している、自国の音楽を愛しているっていうことなんですよね。でも【トヴェイト】は、そこを頑張ってお願ひして得たことで作品が今の世に広まりました。

玉木 そうなんですよね。あの人の音楽は、凄く特殊な響きがするし、物凄く夥しい作品量がありますね。

山瀬 そう。凄くステキですよ！ でもグリーグに比較して、あまり日本で知られていないから残念です。私も少しずつ弾いて、日本に紹介して行こうと思っています。ノルウェーは、ナショナルリズムの国で、自国の音楽家を凄く大切にしていますし、誇りを持っています。

玉木 ノルウェーは、ボクは好きだなあ。

山瀬 そうですかあ、嬉しいです。ノルウェーと日本って相通ずるものがあるって、この【ハルダンゲル】で日本の曲を弾くと、またいいんですよ！ これを弾くとノルウェーの人達は、凄く喜んでくれるんです。

～山瀬さん、【さくらさくら】を演奏～

玉木 響きが凄くキレイですね。

山瀬 ノルウェーで、これを弾くと、みんなうっとりです。自分たちの土地の音楽に似ているって。これでコミュニケーションがとれちゃうんです。

玉木 日本の民謡や邦楽とかの編曲って、物凄く少ないからね。だから日本のヴァイオリン弾きが海外に行って、何か日本の曲を弾いてくれって言われて、即興でやればいいのに、楽譜がないから弾けませんとかね。そんなこと言っちゃダメなんですよ！ じゃあ楽譜があつたら弾けるのかってことですよ。

山瀬 この【ハルダンゲル】は伝承楽器なので、きっと日本の昔からの曲に合う音があるんだろうなって思うんです。

玉木 いいねえ、この楽器。純正律的にも素晴らしい楽器ですよ。倍音が豊富だしね。ちょっといいですか？

～玉木、山瀬さんからお借りして、【ハルダンゲルヴァイオリン】を試奏～

玉木 いいなあこの楽器。病気になるそう。

山瀬 ソフトで柔かい弓を使って、2本3本一緒に弾いちゃった方が、いい音色

を奏でられます。そして足でテンポをとりながら演奏するんですね。メロディを弾きつつ、伴奏もしつつ、全部自分で出来るようになっているんです。ちょっと忙しい楽器ですが、すごく便利な楽器です。

青木 多彩な音色ですね。目を閉じていたら、一人で演奏しているなんて思えない。

山瀬 そうなんです。『本当に、一人で弾いているんですか？』って。コンサート会場で初めて一人で弾いているのをご覧になって納得される訳です。とっても感動されて帰って行かれます。

玉木宏樹の【純正律音楽】演奏に！山瀬さん、感動

～ここで玉木のヴァイオリン演奏～

山瀬 ステキ！ すご～い。

玉木 キレイにハモるでしょ！

山瀬 一緒に弾きたいなあ。

玉木 ソレラミじゃ純正律にならないところがあるんでね。ソレソレに調弦するんですよ。ソレソレにすると完璧に純正律になるんです。そのかわり、ソレソレにすると大変！ 自分の頭の中でね、道を歩きながら、ソ・ラ・シ・

ド・レ・ミ・ファ・ラ・シ・ド・レ・ミ・ファ・ソ・ラって。 ラ・ソ・フ

ァ・ミ・レ・ド・シ・ラ・ファ・ミ・レ・ド・シ・ラ・ソってね (笑)。

山瀬 すご～い。なるほど。

玉木 譜面で書くと、実音で書いたら弾けないのよ。だからアードゥアーに転調しなければいけないんです。固定読みだけどね、ソ・ラ・シ・ド・レ・ミ・ファ・ラ・シ・ド・レ・ミ・ファ・ソ・ラってね。口で絶対言えないとダメなんですよ。口で言えなきゃ弾けない。

山瀬 スゴイ！ 何でそんなに口が回るんだろう！！

青木 もっとスゴイですよ。【クマンバチ】は、演奏しながら唄うんですよ。

玉木 世界でも、ボク一人でしょう、こういうことする人。普通に弾いていてもツマラないからね。

～玉木、【クマンバチ】を唄いながら演奏～

山瀬 すっご～い。頭で分っていても口では言えない！ ノルウェーに【蚊】という曲があるのを思い出しました。でもスゴイですね。

玉木 いやぁ遊びですよ、遊び。

山瀬 でも、その遊びが大事ですよ。

- 玉木 普通にクラシック弾いていたって面白くもなんともないもの (笑)。
- 山瀬 私も音楽、いろいろいじるのですが、いいですよ！楽しいですね。
- 玉木 ペグで音程とって演奏したりね。
- 山瀬 なんか似てる私と玉木さん。考え方も。私も昔あった【おもちゃ箱】っていう曲で、遊んだりしてますよ。でも、ペグで音程とるのは出来ないです。
- 玉木 しかし、この【ハルダンゲルヴァイオリン】は、共鳴弦があるから特殊な音がしますね。大きな音は出ないけど、キレイに純正律でハモってれば通りますよ。
- 山瀬 【ニッケルハルパ (スウェーデンの民族楽器)】より、音が繊細だと思うんですが。
- 玉木 【ニッケルハルパ】もいいけど、やっぱり今日聴いて【ハルダンゲル】の方が、全然いいですね！
- 山瀬 良さが違うんでしょうね。【ハルダンゲル】は、もっと大地の音に近いとか。
- 玉木 ボクは、世界で誰もやらない実験をやっているんですよ。誰も気がつかないことばかり、やってるんです。例えば、弦楽器を20人くらい呼んでね、『君たち音程悪いから、左手をポケットに入れなさい！』ってね。20人に音の高さを分割して、このコードの時には、ここここって言ってね。要するに、ハンドベル状態にしたんですよ。それで演奏させたことがあるんです。
- 山瀬 なるほど。スゴイですね。それはCDとして出ているんですか？
- 玉木 ソニーからね。録音の時は、大変でしたね。少しでも時間が経つと音が狂ってくるからね。大汗かいて……。それで作ったのが、バッハの【アヴェ・マリア】です。これです。
- ～CDを聴いて頂く～
- 山瀬 これはキレイですね！
- 玉木 ここまでこだわった純正律の演奏って、ドイツにもフランスにも無いと思いますよ。これを彼らに聴かせると、本当にビックリすると思います。しかし、ここまでやっちゃうと次にもっと面白いことないかな！ってね。一応、マジメにやってるでしょ！
- 山瀬 もう感動です。
- 玉木 ソロも全部、純正律ですよ。全部、強制的に開放弦しか弾かせてないからね。
- 山瀬 玉木さんに是非、北欧に行かれて向こうで演奏して頂きたいですね。もちろん日本にも素晴らしい自然がありますが、向こうはもっと澄切っていい

て、そういうところから、こういう楽器が生まれていて、更に美しいハーモニーが生まれているんです。スケールが違うっていうだけではなくて、日本人と相通じるところが沢山あると思うんですね。日本人が北欧の音楽を聴いて、懐かしさを感じるっていうのは、そういう風土も近いですからね。北欧で玉木さんに、そういう音楽をやって欲しいですね。

私のテーマは【北欧】。【ヴァイオリン】と【ハルダンゲル】で、クラシックからオリジナルまで。青木さんは最初から応援して下さい、日本でも【北欧】というジャンルが出来るといいなあって思っているんです。

玉木 ボクはね、この純正律音楽研究会で10枚ほどCDを作っているんですよ。いつか【ハルダンゲル】で参加してくれると嬉しいなあ。

山瀬 是非是非。喜んで。

玉木 でもね、予算がかけられないからね。

山瀬 (笑) その辺は応相談ってことで。でも、是非一緒にやりましょうよ。今、仲間を募集中なんです。

青木 コンサートを、一緒にやられたらどうでしょうか。

玉木 いいじゃない！絶対に面白いよ。

山瀬 ええ、是非一緒にやりましょうよ。

玉木 ボクは、三味線も弾くんですよ！

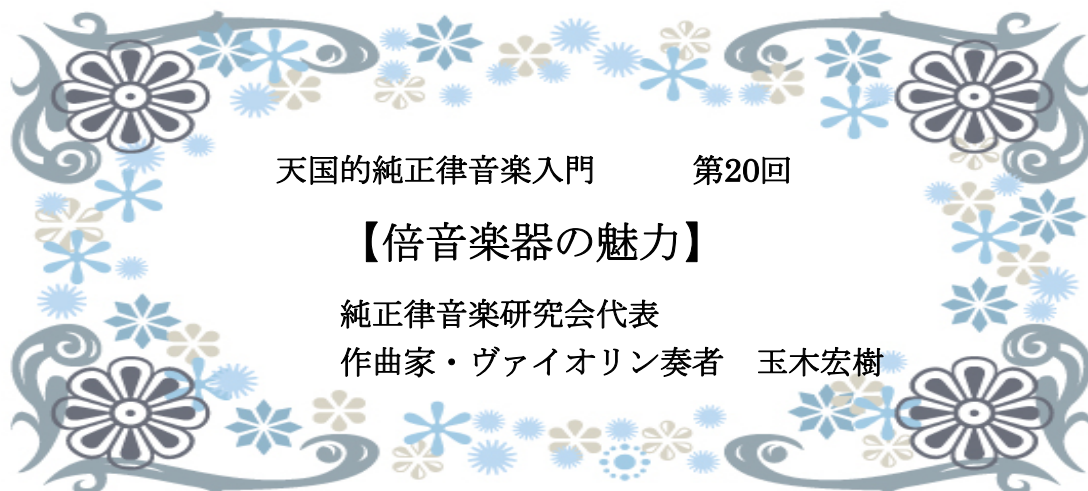
山瀬 えっ！三味線もやられるんですか？

玉木 三味線の曲も書いているんですけどね！

山瀬 えっ、そうなんですか。【三味線】と【ハルダンゲル】とで、何かできませんか？

玉木 それは面白いかもしれない！！

(後編は次号につづく)



天国的純正律音楽入門 第20回

【倍音楽器の魅力】

純正律音楽研究会代表

作曲家・ヴァイオリン奏者 玉木宏樹

先日、本号の巻頭対談で紹介している山瀬理桜さんのハルダンゲルヴァイオリンコンサートに行ってきました。コンサートそのものは、ハルダンゲルの紹介と同時に、ノルウェーとグリーグの紹介も兼ねていて、シアターコクーンには柔らかくて繊細な音が響きわたり、異空間の音に満たされました。

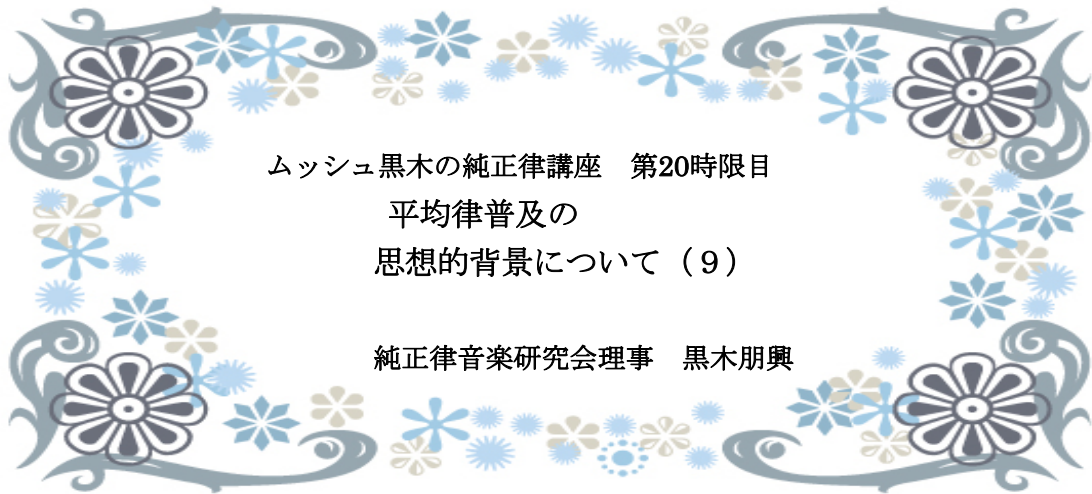
対談でも説明していますが、ハルダンゲルは、ヴァイオリンに似た4弦の弓奏楽器です。楽器の装飾はともかく、何と言ってもヴァイオリンと大きく違うのは、駒の下部分に、全く演奏しない共鳴弦が、4本から5本張ってあり、その共鳴によるナチュラルエコーがとてもふくよかで神秘的効果を生み出します。また、ヴァイオリンの4弦も曲調によりさまざまなチューニングをします。ヴァイオリンのいわゆるソレラミ調弦ではないのです。またこの共鳴は、当然豊かな倍音も生みます。今のヴァイオリン族こそ共鳴弦はなく、その分、直接的に線的メロディを強調し、ハルダンゲルより当然音も大きく、表現力も豊かなのですがその分、自然な響きの協和の感覚から遠のいてしまいました。ヴァイオリン族は16世紀頃に生まれたと言われていますが、それ以前は、フレット付きで共鳴弦のあるヴィオール族が主流でした。ですからハルダンゲルはヴィオール族の名残りとも言えるのです。ノルウェーの隣、スウェーデンにも民族楽器、ニッケルハルパというのがあります。私は楽器も演奏も見たことがないので、断言はできませんが、CDで聴いた音の印象では、やはりヴィオール族の名残りだと思われまます。世界中に昔、共鳴弦の楽器は沢山あったのです。インドのシタールもそうです。日本の三味線は、一の糸（一番最低弦）にサワリという騒音めいた複雑な音が聴こえます。西洋楽器しか認めない人達は楽音とは思わないようですが、実はこのサワリという装置が、二の糸三の糸の音程に対し、倍音的に共鳴し独特の深みを生み出すのです。

さて、私はよく【倍音】とは何か？という質問をされます。数字的な理屈を

並べるのは簡単ですが、それでは納得いく答えにはなりません。そこで私はビール瓶の例えを出します。遊びで注ぎ口から息を吹き込むと『ポーッ』という深い低音が出ます。皆さんも一度はやったことがあると思います。しかし、これだけではまだ説明にはなりません。息の吹き込み方や唇の角度を変えると、かん高い金属的な音を発したりします。これが倍音なのです。もちろん倍音はこのかん高い音だけではありません。いろいろ工夫すると、様々な音程が出るようになります。この種々の倍音を手なずけて楽器にしたのが管楽器の原型です。私は人間の声も倍音を沢山含んでいるというとなんか不思議な顔になります。人それぞれみんな声質が違うのは、神の配剤のDNAの違いによって強調される倍音の位置の差異によるのです。ホーメイというモンゴルからバイカル湖近くの人達による一人二重唱があります。以前ユニクロのCMで有名になりました。

この間、私は桐朋学園芸術短大の集中講義の講師をつとめました。6コマもあったので、1コマをホーメイの達人、巻上公一氏をゲストにいろいろパフォーマンスをお願いしました。殆んど受講者たちが、実演を見るのは初めてで口あんぐり状態でした。彼は誰でもすぐに二つの音を出すことは出来ると言いますが、私にはできません。また日本でも浪曲師の声は、かなり倍音を伴っていると言います。そう言えば、うちで法事や命日の時に来る坊さんのお経が、若い人のは素読みに近く全く有難くない。しかし、年期の入った僧侶のお経は実に倍音が豊富で、意味なんか分らないのに有難く、頭にジンジンきます。まさに倍音の冥利です。巻上さんは、また口琴の達人でもあります。口琴はジュエズハーブともいい、大正時代はその音そのもののビヤボンと呼ばれていました。小さな馬蹄形の金属の枠組みに弁をつけ、それを口の中ではじくとポーンという音になり、それを口の中の容量変化で音程を変えていくまさに倍音楽器です。この系統の楽器は世界中にあるとのことで、中国口琴のCDを聞かせてもらいましたが、驚くべき奏法をしています。北欧でもさかんで、オーストリアは口琴の生産がとて多いそうです。そう言えば私が昔作曲したTVドラマ【怪奇大作戦】のメインタイトルでは、この口琴が大活躍しています。





ムッシュ黒木の純正律講座 第20時限目
平均律普及の
思想的背景について（9）

純正律音楽研究会理事 黒木朋興

前回、ボードレールの同時代人によるもう一つの散文詩引用することを予告した。実は前回文末に載せた詩がそれである。かつて私の恩師である阿部良雄先生に教えて頂いたもので、ジュール・ルフューブル＝ドゥミエという詩人が1854年に発表した作品である。改めて引用してみたい。

『時計』

砂時計は告げる、我々はみんな瞬間瞬間を数え上げるモノになる、と。水
時計は言う、この世にしずくの涙で刻まれないものはなく、今後の世代は
もはやしたたる水滴以外の何ものでもなくなってしまう、と。沈黙の雄弁
家たる日時計は影でもって光が続く時間を計るし、苦勞や喜びも死に向か
って歩いていくのだとひっきりなしに繰り返し語りかけてくる。砂時計も
水時計も日時計も視線を通してのみ思考に訴えかける。人はこれでは十分
ではないと思ったのだ。人は耳に時の流れを聞くように強いたのだ。自分

たちの時間がどうなってしまうか分からずに、その時間の群に鈴をつけ、

そして、この素晴らしい発明のおかげで自分の人生の分け前に対して吊鐘

をならすことが可能となる。

もちろん日時計等はいくまでも比喩であり、携帯時計の普及が問題となっていることを言うておく。その普及は劇的に人々の生活を変えてしまったのだ。

例えば、現在では9:15に図書館の前に待ち合わせ、といったことは当たり前になり可能である。携帯時計のおかげである。しかしかつてはそうではなかったのだ。時計を持たない多くの人々は定期的になる教会の鐘の音で時を知ったのだから、15分きっかりに待ち合わせなど出来るものではない。人々は漠然とした時間感覚の下に生きていたのである。

この時間の観念の変化が最も大きく変えたものの一つに労働がある。現在では時給というものの考え方が当たり前のもので通用しているが、時計が普及していない時代には当然労働の価値は時間によって計られてはいなかった。それに対して、この時代王侯貴族だけではなくブルジョア階級にも時計が普及し、工場経営者である彼らは時間による労働者の管理・支配を開始したのである。

この時間による体制のことをテイラーリズムという。例えば、これ以前の職人は、自分たちの仕事場で自分のペースで仕事をしており、従って始業時間や終業時間などはあつてないようなものであった。一日中働いている時もあるだろうし、逆に全く仕事のしない日もあるだろう。家内制手工業という言葉を考えてもらえば分かりやすい。これは一次産業と呼ばれる農業や漁業などでも同じである。台風が来ているのに就業時間ではないからと家で寝ていたのでは話にならない。だが、時計の普及がこのシステムを根底から変えてしまった。新たな時代においては労働者、設備や原材料を工場に集めて労働に従事させる。ここでは個人ではなく集団で作業をする。こうして大量生産が可能となり、商品の単価が下がる。そして工業製品が市場を席卷し、多くの家内制手工業が廃業となる。やがて職を失った労働者が工場に流入し、更に生産規模が拡大する。このような職場では労働の価値、つまり給与は時間によって計られる。労働者は腕前とうよりむしろ、時間厳守や品行方正などの従順さを求められたのだ。ここでは経営者は出来るだけ長時間働かせようとするし、更に、就労時間内に如何に真面目に働かせるかに腐心するようになる。規則正しく仕事場に通うことと同時に、決められた時間内にノルマをこなすことが求められるのだ。当然、

労働者側の抵抗も労働時間を削減する方向で行われる。「労働時間の数量化」が実現されたのであり、これがテイラーリズムである。

このテイラーリズムは20世紀に入りフォーディズムに発展し、モダン産業の盛隆を促すことになる。つまり時計の普及は我々の生活を根底から変え、そして産業のあり方そのものも変えてしまったのである。それは19世紀後半から20世紀にかけての時代に起こった変化なのだ。

付け加えておけば、先頃廃案になった「残業代ゼロ法案」の理屈とは、フォーディズムの時代が終わり時間による労働価値の算定が不可能となった時代に、もともと工場労働者向けであった時給という考え方を事務職に適用し続けるのは無理がある、というものだ。では、我々は一体これから何を基準に労働の価値を計っていくようになるのだろうか？

【Musica おおた】の音楽よもやまばなし
— 動物も音楽を聴いている —

純正律音楽研究会正会員
音楽事務所 Musica おおた
廣川 深

小鳥はとっても歌が好き、子猫もとっても歌が好き、ニャン！というわけで、今回は私の最近の体験から、人間以外の生き物も音楽を聴いているというお話をしましょう。

まず、今年の7月にヴァイオリンのサロンコンサートを聴きに行ったときの話です。あるレストランを貸し切りにして行われたのですが、ヴァイオリンの演奏が始まると、なにやらヴァイオリンとは違う音がどこからともなく聞こえるのです。ジャマになる音ではなく、むしろそのおかげでヴァイオリンが引き立って聞こえるような気さえたのですが、何の音か気になっていました。そして休憩時間に発見。なんとツバメが軒先に巣を作っており、子ツバメたちがヴァイオリンに合わせてさえずっていたのです。その後も聴いていましたら驚いたことに音の高低、強弱、さらには曲想に合わせて鳴き声が変わるのです。これは、子ツバメたちが単に物理的な音としてではなく、音楽として聴いているからだと思います。また、小鳥のさえずりのことを、よく『小鳥の歌』といいます。自分で実験したわけではありませんが、キンカチョウのひなをジュウシマツに育てさせると、キンカチョウはジュウシマツの歌を習い、これを歌うそうです。生後50日くらいまでにお手本となる正しい歌を聴かないと、生涯正しい歌は歌えなくなります。しかも、正しく覚えても初めから完全にはうたえません。自分の歌を自分の耳で聴く聴覚フィードバックによって歌が完成していくのです。小鳥の聴覚もたいしたものです。

もうひとつは、わが家のお嬢様ネコの話。もともとは生粋のノラネコですが、いまではたぶん自分でも飼いネコだと思っているかもしれません。（庭がなわばり。放し飼いです。）先日、私がチェンバロを弾きはじめたら、窓の外でニャーニャー。窓を開けてやると部屋の中に入ってきて聴いています。何か音がしているので好奇心で聴いていたのだと思いますが、ここで私も好奇心を発揮。

手持ちの楽器を少し演奏してみました。オカリナ、リコーダーのような楽器はキライではないようですが、ちょっと逃げてはなれて聴きます。アコーディオンやハーモニカのようなリード系の音は苦手の様子。ピアノは小さな音なら大丈夫。でもやはりチェンバロがお気に入りのようです。ネコの感覚器のうち、最も優れているのが聴覚。その聴力は素晴らしく、20m先のネズミの足音もわかるといわれています。しかも高音に関しては、人間は最高でも2万ヘルツ程度までしか聞こえませんが、ネコは6万ヘルツくらいまで聞こえます。(ちなみにイヌは3万8千ヘルツくらい) これほど音に敏感なネコが逃げないどころか、自分からそばに来て聴いていたのです。このとき弾いていた曲は、バロックの中でもあまりテンポの速くない曲でした。ネコの音感(?)にはゆったりミュージックが合うのかもしれませんが。このようなことを考えると、『牛にモーツァルトを聴かせると乳の出が良くなる』というのも本当かもしれませんね。

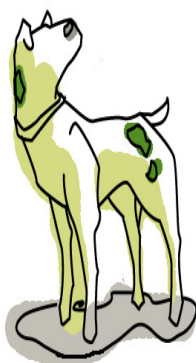
動物もしっかりと音楽を聴いているというお話でした。

♪ ♭

♪ #



♪ ♪





連続エッセイ 【外科医のうたた寝】 第19話



《富士登山競走》



純正律音楽研究会理事 福田六花 (医学博士、作曲家)



マラソンを始めて10年以上が経ち、最初ハーフマラソン (21 キロ) だったのがフルマラソン (42 キロ) になり、ウルトラマラソン (100 キロ) を走り、トライアスロン、アドヴェンチャーレースなどにも参戦するようになってきた。そんな僕の目の前に、2007年大きな大きな壁がそびえていた。富士登山競走である。

過酷さにかけては世界でも有数な大会である。スタートは富士吉田市役所 (標高 700 メートル) で、ゴールの富士山頂 (標高 3776 メートル) まで標高差 3000 メートルを、制限時間 4 時間 30 分以内に駆け上がる非常にタフなレースである。2005 年は八合目関門でアウト、2006 年は山頂に辿り着くも 4 時間 32 分で記録ナシ。今年こそ完走したいと願い、6~7 月は時間があれば富士山ヘトレニングに出かけた。

そして迎えた大会当日 (7/27)。1 リットルの水と、高カロリーゼリーの入った小さなザックを背負い、2000 人を超すランナー達とひたすら富士山頂を目指して走り続けた。気温の高さと前半のハイペースから、四合目で両足を攣り転倒。一時はこの時点でのリタイアも覚悟したのだが、なんとか持ち直して登り続けた。前半は歯を喰いしばって、ひたすら耐えながらのレースであったが、後半は不思議なことに、愉しくガシガシと登ることが出来た。そうして 4 時間 18 分、三度目の正直で山頂ゴールに到達することが出来た。

スタート地点より 20℃以上寒い富士山頂で、完走の歓びを噛み締めながら食べた ¥ 800 のラーメンの味は忘れられない。

<福田六花コンサート情報>

11/10 土曜日 パラダイス・カフェ 21 (名古屋) 052-741-8566

11/11 日曜日 紙わらべの蔵 (富士河口湖町) 0555-72-6233

福田六花 official web site

<http://www7a.biglobe.ne.jp/~ricka/index.html>

CD レビュー 純正茶寮

安部幸明・交響曲 No.1・シンフォニエッタ他

純正律音楽研究会代表

作曲家・ヴァイオリン奏者 玉木宏樹



今回の CD、そして音楽の中身は純正律とは何の関係もありません。しかし私の大好きな CD であり、特にシンフォニエッタの 3 楽章の SL 的リズム感には、いつも元気を与えられます。しかし、実は純正律とは深い関係があるのです。曲ではなく、作曲者です。安部幸明さんは去年（2006 年 12 月 28 日）、95 歳で他界されました。私が中学の頃、NHK ラジオではよく日本人の作品を放送しており、安部さんの名前も記憶していました。長じて私が 20 代で作曲家協議会の一員になった時、安部さんはじめ、中学の時に憧れていた沢山の作曲家に逢え身がひきしまる思いでした。安部さんはチェロ奏者でもあったということで、あるレセプションで作曲家が即席でオーケストラを作ることになった時、チェロを持って参加、コンサートマスターをやっていた私の演奏ぶりが安部さんの注意をひいたようで、その後お逢いするたびに、よく話しかけてくれました。ある集まりの時、私は大勢の作曲家たちの意見に反発を抱き、孤立しました。その時、安部さんに肩を叩かれ、『一緒に帰ろう』と言われました。外に出ると『あぁいう分らん奴らに腹を立てても仕方がない。無視するか、我慢するかだよ。』と変ななぐさめを頂きました。そういうことがあって一年後くらいでしょうか、安部さんから直接お手紙を頂きました。自分は戦前、純正律の勉強をする為に、田中正平氏（純正調オルガンの発明者）のもとにも通って、いろいろ勉強したが志なけば、挫折してしまった。しかし私は今、玉木さんという後継者を得て、大変嬉しい。今後ともよろしく。要旨、こんな内容でした。驚いて私はすぐに

でもお逢いしたいと返信したのですが、すでに入院されていて、お逢いすることはできませんでした。去年お亡くなりになった後、今年になって NAXOS から安部さんのこの CD が出ました。そのライナーノートに純正律研究のことが、詳しく書かれています。

日本の純正律運動は、ドイツ留学した田中正平博士の発明による純正調オルガンで世界的にその名を轟かせました。1889 年に発明したそのオルガンは、ブルックナー、ヨアヒム、フォン・ビューロ等々を驚嘆させ、皇帝ヴィルヘルム 2 世と明治天皇から下賜金を受けています。しかし、洋楽を輸入したばかりの日本では全く理解されませんでした。そんな失意の田中博士のところを、安部さんが訪れます。ライナーノートからその経過を引用します。

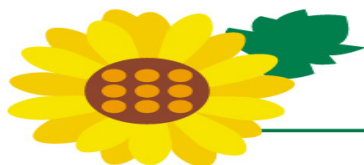
【そのもとを突然に訪ねてきたのが、東京音楽学校でヴァイオリンを専攻する本橋誠やチェロ専攻の安部だった。彼らは平均律のピアノと合奏する時の音程の合わせ方に戸惑い、純正律と平均律の違いをよく学びたくなった。そこで、その道の権威の田中を尋ねたのである。田中はようやく自分の仕事を理解する音楽学生が出現したと喜んだ。安部たちは仲間を増やし、田中の邸宅に出入りしては、田中や弟子の伊藤完夫の操るエンハルモニウムとの合奏を楽しんだ。そこで安部は、純正律の長三和音や属七和音の美しさに魅せられた。平均律は一種の必要悪であり、音楽は可能な限り純正律の方に寄り添うべきだという確信を持つようになった。それは当然、純正律の響きを容易に鳴らせる弦楽器への愛着を深めることにもなったし、平均律に支配されたピアノのような楽器への距離を感じることにもつながった。】

結局安部さんは、純正律の楽器表現の方法論を模索する内戦争になったわけです。私がかえすがえすも残念なのは、生前にじっくりと純正律のお話ができなかったことです。

さてこの CD では、交響曲とシンフォニエッタがおすすめです。特にシンフォニエッタの 3 楽章は、オネゲルの【パシフィック・231】を思わせるような SL リズム感がワクワクさせてくれます。しかし安部さんの作風は、オネゲルとは違い、オスティナートを基調としており、ヒンデミットやブラッヒャーに近いと思われます。また躍動するフレーズにひそむビビッドなリズム感は、特に私の好きなところですよ。

田中氏は日本の音楽界では認められず、鉄道会社の技師となりました。安部さんの SL リズム、そしてテッチャンの私、純正律と鉄道の不思議な関係。何と私は田中正平氏の孫弟子になるわけですね。

イベントレポート



- ☆ 7月13日（金）、新宿にあるドイツ式酒場【昇華堂】にて、玉木の演奏会が行われました。とても心地よいお店で、玉木のヴァイオリンの音色が程よく響く空間でした。



- ☆ 8月3日（金）、【ストリング誌】青木編集長のご紹介で、ハルダンゲルヴァイオリン奏者、山瀬理桜さんが事務所に来社され、玉木との音楽対談を行いました。この模様は、今号・次号の【ひびきジャーナル】にてご紹介。



- ☆ 8月4日（土）、福島矢吹町で、NPO法人【響ネット】副理事長の横山栄子さんが出された食育に関する新刊本の出版記念イベントがあり、玉木と三宅美子の演奏と講演を行いました。盛上がった福島公演でした。



- ☆ 8月19日(日)、関係者の皆様に、ご参集頂き【**玉木宏樹の都電演奏会の旅**】の全体リハーサルを行いました。(前述)



- ☆ 9月1日(土)、【**第一回 都電演奏会の旅**】を実施致しました。三ノ輪橋到着後の親睦会も盛上がりしました。(前述)



- ☆ 9月8日(土)、【**第二回 都電演奏会の旅**】を実施致しました。(前述)



- ☆ 9月22日(土)、本厚木にある社会福祉法人【**ケアセンターあさひ**】さんで、職員研修の一環として【**玉木宏樹の純正律音楽演奏会**】を行いました。



- ☆ 9月28日(金)、都内のとあるロータリークラブの45周年記念パーティが、ホテルオークラであり、玉木とハーピスト高木真理子の演奏で盛り上がりましました。





今後のスケジュール

- (1) 【音の自然食 純正律音楽コンサート】
11月10日(土) 開場：18時30分 開演：19時
『近江楽堂』新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティ 3F (03-5353-6937)
出演：玉木宏樹・水野佐知香・三宅美子
入場券：一般4,000円(会員特別価格3,000円)

- (2) 甲武信源流サミット ECO フェスタ in 秩父ミュージックパーク
【癒しの森コンサート～純正律音楽の世界～】
11月18日(日) 13:00～14:30 出演：玉木宏樹・三宅美子
秩父ミュージックパーク (〒368-0102 埼玉県秩父郡小鹿野町長留)
入場無料(往復はがきでのお申込み)
お問合せ：秩父市役所市長室ふるさと創造課 Tel: 0494-22-2823

- (3) 第三回 玉木宏樹の【都電演奏会の旅】
11月23日(金・祝) 午後12時に早稲田停留所出発
定員：25名様限定
出演：玉木宏樹・高木真理子
料金：一般4,000円(会員特別価格3,500円)
(玉木宏樹のミニCD【ミネラル・ミュージックの真髄】プレゼント)
到着後13時頃より三ノ輪橋にて懇親食事会の予定。別途料金(3,000円)になりますが、是非ご参加頂けると幸いです。

- (4) 洗足学園音楽大学【冬の音楽祭】
12月8日(土) 洗足学園音楽大学 邦楽コンサート中高ホール
出演：西瀉昭子・玉木宏樹 他。(新曲発表)

- (5) ペットイベント (9月末段階で詳細未定)
12月9日(日) 午後1時頃よりイベント開始。
横浜ららぽーと内
詳細が分かりましたら、追ってホームページ等でお知らせ致します。
- (6) 第四回 玉木宏樹の【都電演奏会の旅】
12月15日(土) 午後12時に早稲田停留所出発
定員：25名様限定
出演：玉木宏樹・高木真理子
料金：一般4,000円(会員特別価格3,500円)
- (7) 第五回 玉木宏樹の【都電演奏会の旅・クリスマスバージョン】
12月22日(土) 午後12時に早稲田停留所出発
定員：25名様限定
出演：玉木宏樹・三宅美子
料金：一般4,000円(会員特別価格3,500円)
12月15日共、三ノ輪橋到着後13時辺りより、懇親食事会を予定しております。別途料金(3,000円)となりますが、是非ご参加下さい。

上記演奏会のご予約、お申込みは下記の通りです。

〒106-0031

東京都港区西麻布2-9-2 NPO法人 純正律音楽研究会 (担当：相坂)

お電話：03-3407-3726

FAX : 03-3797-5640

e-mail: info@pure-music.ne.jp

皆様からの、ご予約、お申込みを心待ちにしております。





皆さんが、小学校・中学校の頃、音楽の時間（授業）の中で日本の音楽と同様に、異国・異文化の音楽（宗教音楽を含む）を無意識・意識の中で聴いたり、歌ったり、合唱したり、合奏したりしたのを、身体で覚えていることと思います。

音楽は、人類誕生と同時に始まり、アフリカ東部のエチオピアからタンザニアにいたる大地溝帯で、その地のサバンナで人類（のちの人間）が誕生しました。音楽は、『音楽の三要素』で成り立っています。『音楽の三要素』とは、リズム・メロディ・ハーモニーのことです。リズム・メロディ・ハーモニーは、人類（人間）が生まれながらに持っています。まさに神秘的です。ヒーリング音楽を共に聴き、弾いてみませんか？

毎月、第三日曜日、14：00～15：00に Cafe Musica（音楽を楽しむ会）を致しております。（会費：1,000円、軽食付き。要予約）

〒352-0035 埼玉県新座市栗原 4-10-2 ひばりが丘第3-215

TEL&FAX：042-422-838



おたより募集！

会報のご感想、ご意見、純正律音楽にまつわること等々、なんでもお寄せ下さい。たくさんのお便りを、お待ちしております。次号の【ひびきジャーナル】にてご紹介させて頂きたいと思っております。

〒106-0031

東京都港区西麻布 2-9-2 NPO 法人 純正律音楽研究会

お電話：03-3407-3726

FAX : 03-3797-5640

e-mail : info@pure-music.ne.jp

<http://www.pure-music.ne.jp>

<http://www.archi-music.com/tamaki/>

<http://d.hatena.ne.jp/pure-music/>

発行責任者： 玉木宏樹

編集 : 秋山治樹・相坂政夫

平成 19 年 9 月